

「寒中見舞い」 幕ノ内 (~1/7) 後から立春 (2/4)

寒中見舞い



相手の健康を気遣い、「幕の内」(元日から7日)を 過ぎてから「立春」(2月4日)までに届ける季節の 年賀状を「寒中見舞い」と言います。近年では、年賀 状の返信や喪中で年賀状が出せない場合に、使われる ことが多いようです。

もともと「見舞い」とは村 落において、取り込み中の状

態にある人を助ける意味があります。「田植見舞い」や「普請見舞い」などがあり、周囲の人が食べる物を持ち寄り、飲食を共にすることでその人を力づけたのです。

「寒中見舞い」は簡略的ですが、相手を気遣う心は、はがきを通して伝わることでしょう。私たちは時期により、業務に多忙を極めることもありますが、相手を気遣う心は忘れずに持ち続けたいものです。それは、巡り巡って自分にも返ってくることでしょう。時には心を込めて「寒中見舞い」を書いてみてはいかがでしょうか。



家族の一員 「いのち」の尊さを学んでいることに感動を!



Aさんの自宅には、1 匹の金魚がいます。名前は「金ちゃん」と言います。7 年前に、妻と当時 6 歳の息子が、初めてお祭りに行ったときに、金魚すくいをして 2 匹を持って帰ってきました。 A さん一家では、その日から 2 匹の金魚を飼い始めるようになりました。金魚は1年ごとに大きくなり、20 センチほどに成長しました。

その後、Aさんが家に帰ると

き、2 匹いた金魚のうち 1 匹が死んでしました。その金魚を見ていた息子が「お墓を作ってあげないといけないね」と、妻に話しかけている声が聞こえてきたのです。

日々多忙で家庭のことに関心の薄かったAさんでしたが、 息子が金魚の飼育を通して、「いのち」の尊さを学んでいるこ とに感動を覚えました。そして、1 匹になった金魚をその後 も大切に飼育する息子の姿に、元気をもらっています。

